

2020年万葉カレンダー 歌解説

表紙

上段 奈良県庁屋上から南方面 興福寺五重塔、橿原、葛城・金剛山を望む

中段 左 春の明日香甘樫丘から香久山、右 秋の東大寺大仏殿と大仏池

下段 左から 長谷寺だだおし（2月）、春日大社お田植祭（3月）

大神神社七夕祭り（8月）、談山神社けまり祭り（11月）

一月 我が園に 梅の花が散る （ひさかたの）天から雪が 降ってきたのだろうか
（令和の元号に由来する梅花32首のひとつ、主催者の大伴旅人の歌）

二月 巻向の檜原に立っている 春霞のように ぼんやり思うのだったら ここまで
苦勞して来ようか （檜原神社があるあたりまでへは急な登りである）

三月 春の園が 紅に輝いている 桃の花の 下まで輝く道に たたずむおとめよ

四月 春日にある 三笠の山に 月が出ないものだろうか 佐紀山に 咲いている
桜が見えるように （旋頭歌、三笠の山は 若草山か春日大社裏の御蓋山か）

五月 （ものものふの）群なす乙女らが 水をくみ取っている 寺の井戸の カタクリの花よ
卯の花を 腐らすような長雨で 流れた水に 寄せられる木くずのように 私に寄って
来る娘がいたら良いのになあ

七月 彦星が 妻を迎える舟を漕ぎ出したらしい 天の川原に 霧が立っているのをみると

八月 川べりの 岩々に 草が生えないような若々しさに いつまでもわたしは
変わらずありたい 永遠のおとめで

九月 庭草に 村雨が降って こおろぎの 鳴く声を聞くと 秋めいてきたことだ

十月 秋の田の 稲穂がなびいている そのようにひたむきに あなたに寄り添いたい
噂はひどくても

十一月 今朝の夜明け 秋風が冷たい （遠つ人） 雁が来て鳴く 時が近いからか
（雁を遠くから来る人にとえ、渡って来る時期も近いことを詠っている）

十二月 雪の降る 冬は今日だけだ うぐいすの 鳴くべき春の日は 明日にちがいない